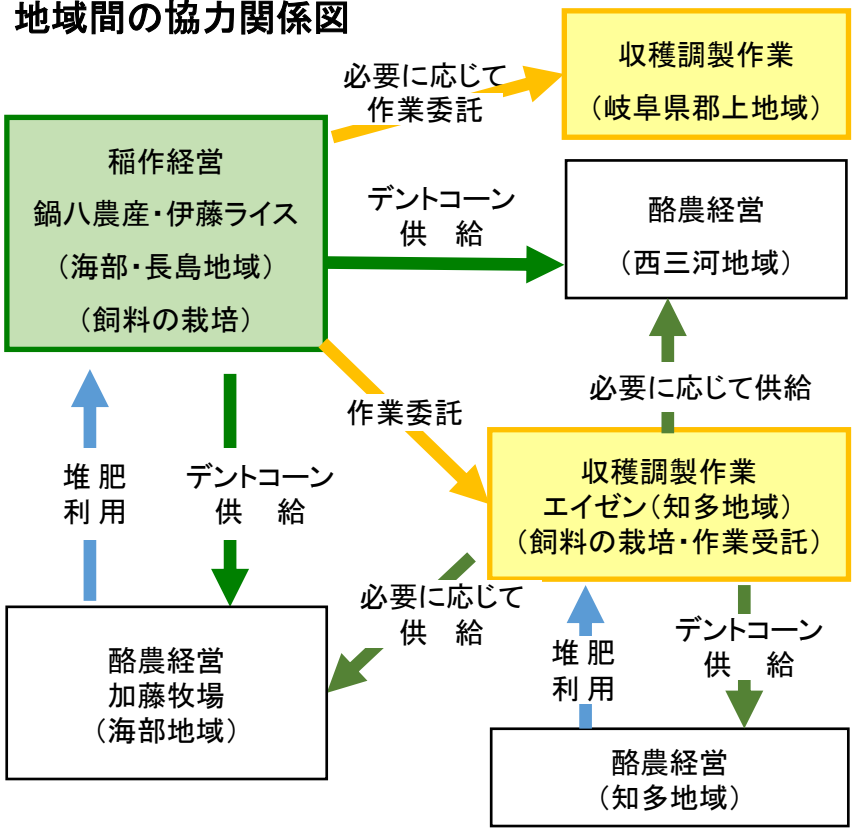


耕畜連携事例(デントコーンサイレージ) 愛知県海部地域・三重県長島地域

- 稲作経営2戸(愛知県弥富市(有)鍋八農産及び三重県桑名市伊藤ライス)と、酪農経営1戸(愛知県愛西市加藤牧場)では、通年安定供給を目指し、湿害や台風等による倒伏被害を考慮し、栽培地域や栽培時期(春播き夏収穫、夏播き冬収穫)を分散させ、地域産飼料としてデントコーンサイレージの生産・供給と、酪農経営の堆肥を2社が利用する耕畜連携の取組が築かれている。
- 収穫調製作業は専用機械器を所有している愛知県武豊町(株)エイゼンに委託しており、収穫時期の重複を回避するため播種時期の調整が必要だったが、収穫時期の異なる地域(岐阜県郡上市)からの支援体制を新たに構築し、今後は2社体制による作業とした。
- これまでの栽培では、湿害・病害虫による被害が散見され、生育及び収量に影響があったため、栽培方法の改善による収量向上と、4者の話し合いによる供給量の調整により、通年安定供給をすることができた。
- 飼料生産者による生産履歴の記録や飼料成分分析が行われ品質管理ができ、牛の嗜好性、乳質、受胎率も良好で、堆肥の利用による地力の向上も図られたことから、知多・西三河地域とも連携し、安定した収量の確保と取組面積の拡大を目指している。

地域間の協力関係図



飼料収穫機械による収穫調製作業



農業機械運搬用の積載車両を利用した配送



開梱したデントコーンサイレージ



採食風景